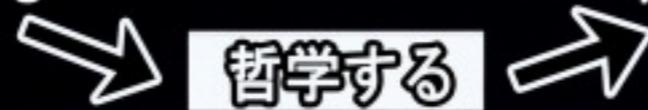




哲学バトル（言葉の続き）



- ・現代に生きる私たち、自分自身について改めて考える機会がなく、漠然と日常生活を送っている。
- ・自分自身を深く見つめ直してみる 自分の生活を意味のあるものにする



- ・ソクラテスやプラトンとか、哲学というと何か昔の難しい学問のように捉えていることが多く、哲学の本質である、自分自身を深く考えるということが今の自分や社会にとって有益だという認識がない。
- ・哲学というと何か難しい学問のようで親しみがなく、大学等で専攻する生活も減少している。
 - ・哲学を学ぶ、哲学について論ずる場がない。

そこで提案するのが哲学バトル



誰もが哲学をするということを身近にとらえ、その手法を自分の生活に取り入れれば人生を有意義なものに変えることができるのではないのでしょうか。

哲学バトル（言葉の続き）のルール

ただ単に哲学をする、といっても何をどう考えたらいいのかわかりません。

そこで何かのことば（お題に）対してその言葉をどう繋げていくか、という答えやすい問題にします。

例えば（1）人生とは、〇〇〇〇というお題を出します。そしてその答えは人それぞれ、年齢や性別、性格、経験によって様々な答えが出てきます。

人生とは・・・メリーゴーランド、止まらないストーリー、前世の恩返し、避けられないのが常、海、楽しむだけ、幸せを探す旅、罪滅ぼし、イチかバチか、等々。

お題はその他にも、「生きることは〇〇・・・」「愛するということは〇〇・・・」「地獄に行くのは〇〇・・・」などどんなお題でもありです。

審査員はそれぞれの言葉に点数をつけ、何回戦かの合計得点で勝敗を決めます。

これらの答えの中には自分自身の気持ちと共感できる言葉も出てきます。その言葉によって人生が変わることもあり得ます。また「自分自身のことを深く考え直すことによって、これからの人生に影響を及ぼすこともあるかもしれません

大会の形式

高校生の大会であれば3人一組のチーム戦のような形がいいかもしれません。3人で相談し、哲学的な答えを考え発表します。準決勝や決勝戦は二つのチームの対抗戦で勝負を決めます。

哲学バトルは理想的にはデザセンと同じようにどこかの大学（哲学科のある大学）が主催して、哲学甲子園などのような形で予選大会、決勝大会として開催するのが理想的です。

